

# Principal Correspondence

## 5・6年生に創論の授業を創設します

2021年度リリーベール小学校へようこそ。  
ご入学、進級おめでとうございます。当校は全国でも珍しい  
幼小連携教育のために開校した学校で、創立18年目を迎えます。  
今年も変わらず、校訓に「自立・創造・指導力」を掲げて  
毎日の実践の中で育て参ります。

私たちは「幼児期から10歳前後までの教育こそが、その人の脳の器をつくり、人格をつくり、人生を左右する最も重要な時期である。」という信念をもっています。偉人と言われる人に共通しているのは良い学歴を手にしたことでなく、心豊かで好奇心に溢れた少年少女時代を過ごしていることです。

私たちはさらに、臨界期を終えた10歳以降は、OECD(先進国クラブ)でいわれる、「21世紀型PISA型」学力の養成に取り組みます。21世紀型学力とは**創造性教育**で、「課題発見」「課題設定」「情報検索」「課題の共有」「課題解決」能力を育成することと、**論理的思考**をしっかりと身に付け、「論理的に表現する力」を合わせた学力です。

4月より、5・6年生に「**創造論理**(略して『**創論**』)」という**新しい科目**を設けます。

また作文添削や、個人指導を徹底するために1つのクラスを2つや3つに分けて指導する、新しい小規模学習指導室を3月中に設置します。そちらは、大型ディスプレイやエアコンを整備した**オックスフォード・ルーム**(Oクラス)と**ケンジントン・ルーム**(Kクラス)の2部屋で**OKハウス**と名付けました。

県立中学校のいわゆる適性検査型学習はその21世紀型学力を狙っているのですが(別に、私たちの試みは受験のためではありません。)、もっと長い目で将来を担う子どもたちには必須の学力であることを考えて取り組みます。5年生はグループ研究を行い、6年生は個人で卒業研究活動を行います。

わたしたちリリー文化学園の職員・スタッフは「**いつもあたたかく いつもあたらしく**」

この言葉を行動規範として、**常に新しい試み**を忘れず教育にあたります。

かけがえの無い幼児期と少年少女期を提供できるように今年度も頑張ります。



# Principal Correspondence

## ティーンエイジャーはSNS依存症になりやすい (スマホ脳 アンデッシュ・ハンセン 新潮社 )より

中学生ともなると思春期にはいり一時的に感情が不安定になります。10代はドーパミンの放出が活発な上に、衝動を制御する能力が成熟しておらず依存症になるリスクが高いのです。世界中で10代にアルコール・たばこ・薬物を厳しく禁止するのはその為です。

ITの申し子のようなあのビル・ゲイツでさえ自分の子には14歳になるまでタブレットを持たせずに育てたと言います。

ヒトはその進化の過程で、誕生して以来99,9%を狩猟と採取生活で生き延びてきました。農業でさえ人間の歴史の中では(一日に例えると)数分前の出来事と言われます。ましてや今の環境が、人類の進化と合っていないことは明白で、心に大きな影響を与えています。生物学的に言えば私たちの脳は未だサバンナに暮らしているのですが、体はアスファルトジャングルに暮らしていると言われるゆえんです。



IT化が進んでいる北欧のスウェーデンでは9人に1人が抗うつ剤を使用しているといわれており、今の社会が物質的に恵まれているのに幸福感は低いことがわかります。



ところで、ある実験ですが、小学校高学年の子に、半分のグループには書籍で短編小説を読ませ、もう半分にはタブレットで読ませたところ、書籍で読ませたグループの方がよく内容を覚えていたという結果があります。さらに長期記憶を定着させる(頭を良くする)には脳細胞間に新しい繋がりを作り、その繋がりを強化するために信号を何度も通さねばならないのですが、この固定化という作業には集中力が必要です。

チャットやツイート、ニュース速報を次々と検索して、間断なく脳に刺激を与えるとこの記憶の過程を阻害します。集中力がつかないのです。デジタルで情報を効率的に取り込んでいると思いがちですが、それは表面的なもので、思考力は育たない。頭は良くならないということです。ITは万能と思いがちですが特に幼少期は直接的な体験をしっかりとやっていくことが大切です。気をつけていきたいものです。

